

中学校第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大和郡山市立郡山西中学校 教諭 中澤 宏太

1. 単元名 地域の暮らしをみつめる

2. 生徒の実態と目指す生徒の姿

今年度本校では「生徒のコミュニケーション力を高め、生きる力をはぐくむ教育を実践する」という目標を掲げて全校で取り組んでいる。昨今のコロナ禍のため、修学旅行や職場体験、校外学習、体育大会などは軒並み中止や規模縮小を余儀なくされ、校外の人たちとの交流の機会が減り、生徒たちのコミュニケーション力を十分はぐくむことができていない。そこで2年生では、友だちとの意見交換や地域の人との触れ合いを通して、自分たちの地域の良さや課題に目を向けてそれらを自分事とし、より良い地域にしていこうとする態度を育みたいと考えた。

3. 単元について

(1) 教材観

本校の生徒は、1年生のときにSDGsの基本理念について学習している。今年度は自分たちの地域を題材に、SDGs11番「住み続けられるまちづくりを」を念頭に置き、具体的な学習を進めていきたい。大和郡山市は奈良盆地北部に位置し、佐保川や富雄川が流れている。また郡山城を背景にした城下町であり、明治時代から盛んになった金魚の養殖で全国的に有名な地域でもある。校区の矢田町には大和民俗公園があり、公園内の博物館には、県内各地の民俗資料が展示され、重要文化財となっている民家も移築されている。広大な敷地には四季折々の自然があふれ、子どもからお年寄りまで世代を越えて楽しめる場所である。

(2) 指導について

生徒たちの大好きな学校給食は吉野川分水に恩恵を受けており、その源流である奈良県川上村の森と水の源流館へ校外学習を行った。施設見学とフィールドワークを行い、スタッフの地域への思いや働く姿から、地域愛や下流で暮らす人々のためにきれいな水を届けようとする利他の精神を学んだ。

次に生徒たちが暮らす地域の学習に繋げる。自分が気づいた地域の良さや課題だけではなく、家庭で保護者にインタビューしたり、学校に地域の人招いて、地域についてより深める学習を行った。

また、大和郡山市役所の職員の方にも来校してもらい、市が行う総合計画を話してもらい自分たちの学習の成果も発表するという応答的コミュニケーションの場を設ける。

学習の発展としては、地域をより良くするために生徒自らがボランティア活動を計画している。

(3) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

・自分たちの地域には様々な良さがあり、地域の人々が協力しながらお互いに助け合って暮らしているということに気づく【多様性・相互性・連携性】

○本学習で育てたいESDの資質・能力

・コミュニケーション力:生徒同士や地域の人との意見交換を通して、相手の願いや思いを知り、自分の考えを伝えることができる。

・長期的思考力:地域の昔を知ること、現在の地域の良さを未来にもより良く繋げていきたいと考える。

○本学習で育てたいESDの価値観

・世代間の公正、世代内の公正、自然環境・生態系の保全を重視

○貢献できるSDGs

・11:住み続けられるまちづくりを 17:パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の指導計画(全30時間)

主な学習活動と学習の支援

1 SDGsの基礎的な知識を学ぶ。

・奈良教育大学に依頼し、SDGs入門の講義を受け、ESDの視点や価値観についても学ぶ。

2 毎日食べている学校給食は吉野川分水の恩恵を受けていることを学ぶ。

・またその上流の川上村には「森と水の源流館」という施設があることを知る。

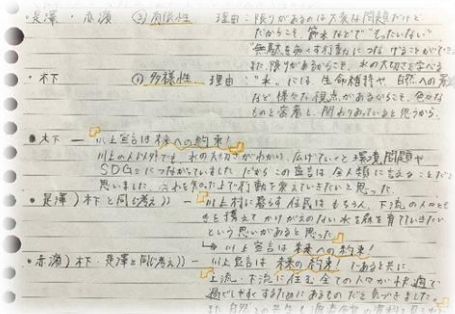
3 森と水の源流館に校外学習へ行く。

・生徒ひとりひとりがテーマを持ち、施設見学とフィールドワークを行い、自分のテーマの答えを探しながら、スタッフの方々の地域への思いや、他者を気づかい行動する利他の考えに触れる。



4 ESDの視点で学んできたことを考える。

・「森と水の源流館」で学んできたことを他クラスの生徒とまとめる。



あまり話したことがない他クラスの生徒でグループを組んだが、興味のあるテーマが同じなので、意見を言いやすい雰囲気がある。また、意見交換のなかで、1つの事柄でも、人によって違う考え方があることに気づく。

5 自分たちが暮らすこの地域の良さと課題を生徒同士で出し合う。

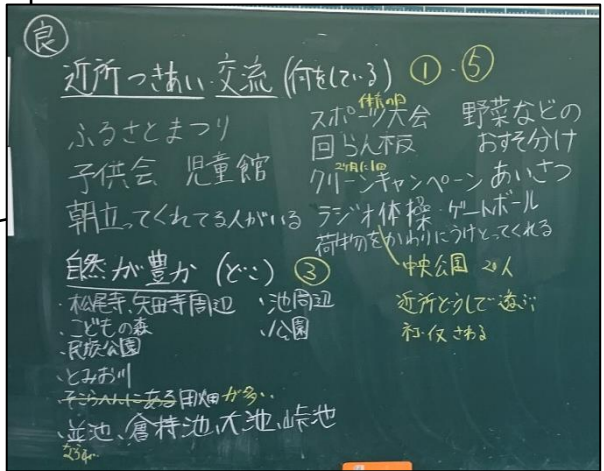
・自分たちが暮らす地域の良さと課題を、ESDの視点を踏まえて意見交換することで、他者の思いに気づく。

6 この地域の良さと課題は何か、保護者や近所の人にインタビューする。

・たくさんの意見を集める中で、生徒自身が知らなかった地域の良さや課題に目を向けさせる。

7 集まったデータを班内でより具体化する。

・「自然が豊かだ」という意見がたくさんだが、生徒によって思い描く自然は違う。何を持って「自然が豊か」だとするのか？またそれはどこを指しているのか？など、良さや課題を具体的な言葉や地名にすることで、地域の本物の姿を見いだす。



8 学校に親世代とさらに上の世代の、地域の人招いて昔の様子を伺う。

・現在の地域の良さや課題は認識することができたが、これらは昔から同じなのか、それとも変わってきたのか。具体的な質問をグループで考え、地域の人に直接質問してみる。



9 インタビューした内容を整理し、「改善」「継承」「発展」の3つに分けて考える。

・インタビューしてわかったことを次の3つに、班で相談して分類する。

- ① 昔と比べて悪くなっているところは「改善」の項目
- ② 昔から続いており、未来にも繋げたいところは「継承」の項目
- ③ 昔から続いており、さらに盛り上げたいところは「発展」の項目



10 「改善」策、「継承」策、「発展」策をみんなで考える。

・それぞれの項目についての具体策を班のメンバーで考えて出し合う。
・出てきた具体策の中から各自が興味関心のあるものを選択し、同じものを選択した者同士でグループを作り、自分たちが行うことを計画書にまとめる。

11 大和郡山市役所の総務部 企画政策課の方に来校していただき、意見交流の場を設ける。

・生徒が作成した計画書はあらかじめ企画政策課に提出しておき、計画内容についてアドバイスをもらう。
・市の総合計画について話していただき、市が考える未来像を知ること、自分たちの地域の未来をより身近に感じることができる。
・生徒たちが事前に考えた内容について、行政にお願いするところと自分たちでできるところを区別し、行政任せにしない生徒の態度を育む。

12 地域でできるボランティア活動を行う。

・自分たちで考えたボランティア活動計画を保護者の人に示し、実行する。
・すでにあるボランティア活動に参加したり、新たな活動を呼びかけたりする。

13 改善策を考える。

・各グループで行ったボランティア活動を互いに振り返り、次年度に繋げていくための意見交流をする。

14 取り組みを学校内で発表する。

・自分たちが行った取り組みを他学年に発表し、生徒会活動や委員会活動にも繋げていく。
・自分たちの地域に愛着や誇りを感じ、地域のより良い未来を考え、行動することができる。